日英の看護力作業に関する アンケート調査について

小川 鐵一 (東京電機大学)

ローズマリー・チェソン (ロバート・ゴードン大学)

大久保裕子 (自治医科大学看護短期大学)

A Comparative Study of Japanese and British Nurses' Patient Manual Handling

Koichi Ogawa (Tokyo Denki University)

Rosemary Chesson (The Robert Gordon University)

Yuko Okubo (Jiti Medical School, School of Nursing)

1. はじめに

1994年10月に日本の看護者357名から、また、1995年同月に英国の看護者229名から看護・介助と看護補助機器に関するアンケート調査回答を得た。英国では1993年に、患者は複数人で持ち上げ、それが行えない場合は補助機器を使うという手作業に関する規制が実施された。本稿では日英で共通質問が行えた日常看護介助、看護支援機器の機能要望について述べる。

2. アンケート質問内容と実施方法

日本のアンケート^{1) 2)}を基に6項目からなる英国の看護者用アンケートを作成した。本稿はその内「日常よく使う看護力作業場面と負担(リスク)が大きい看護場面」および「看護支援機器の導入賛否と機器機能の要望」について日英の比較結果を述べる。

2.1 アンケート内容と用紙

負担が大きいと思われる患者介助場面をビデオ撮影し、それらの介助場面を図1(臥位から座位への抱き起こし)に示すように動作開始、中間、終了の3場面に分けた場面集を作成した。それぞれの介助場面には、A1(患者の助力なし)、A2(患者の助力有り)、A3(前面からの抱き起こし)・・・ように記

A1 Without the patient's help A2 With help from the patient A3 Facing from the front

図1 臥位から座位への抱き起こし

号と説明を加え、回答は記号で行うようにした。16名からの予備調査回答に若干の修正を加え、本調査の質問を7頁にまとめ、それに場面集6頁と依頼状を添え合計14頁の本調査用アンケート冊子を作成した。

2.2 アンケート調査方法

本調査はベッド587床を有するAberdeen市立のWoodend Hospital(スタッフ数1250人)に勤務する専任看護者を対象にした。専任の看護者413名をアンケート対象者として選び、マネジャー→シスター→看護婦の順でアンケート冊子を看護現場の看護者に手渡し、229名(回収率55.4%)からの回答を得た。

3. アンケート調査結果の日英比較

3.1 日常よく行う看護・介助について

図2は「日常よく行う介助」の日英比較結果である。日英両国がともによく行う介助は、「患者からの助力なしの臥位から座位への抱き起こし介助(A1)」と「臥位から座位への体位変換動作(F1)」である。ところが、日本では行っているが、英国ではほとんど行わない介助に患者を一人で持ち上げる介助(Dグループ)がある。しかし、日本の看護者の多くもこの介助は後述(図3参照)のように腰痛を起こす危険性の高い動作であることを認めている。

3.2 危険と思われる看護・介助動作

図3は図1に示した場面集を参照し「腰痛を起こす危険性の高い動作」を指摘してもらった結果である。ここで、臥位患者を持ち上げる場面(D1~D3)は日英両国ともに多くの人が危険であることを認めている。しかし、日本側では図2に示したように、現在でも危険と思われるその介助が行われている。

4. 看護現場への機器導入賛否と機器機能の要望

日本側の補助機器導入に賛成という回答は95.8%である。一方、英国では80.3%の賛成があった。

図4は創造的な看護補助機器が将来開発され、看護現場に導入するときに日英の看護者がその機器に要望する機能/特徴を示す。図中の上段は英国側の回答が日

図2 日英の日常患者介助の比較

本側の回答より上まった結果を示し、また、中段は日英がほぼ等しい結果、下段は日本側が英国側より上った回答結果である。

5. おわりに

今回、英国においてアンケート調査を実施した結果、英国では重いものを人が持ち上げてはならない規制がしかれ、持ち上げ補助機器を積極的に使うような指導が行われていた。そのため、一人で患者を持ち上げるようなことはないという事実が明らかになった。そのほか、病棟には「キー・リフター（患者持ち上げ責任者）」をおりたり患者や重い物を取り扱う看護者および関係者全員が受講の義務を持つ患者取り扱い講習会を積極的に開催していることも明らかになった。

参考文献

- 1) 大久保祐子他5名：看護動作に関するアンケート調査（ベッド・車椅子移動動作における重労働部分について）日本人間工学会誌代31巻特別号、1995、252-253
- 2) 小川鑑一他5名：看護動作に関するアンケート調査（看護者の機械導入意識について）日本人間工学会誌代31巻特別号、1995、254-255

図3 負担が大きいと思われる患者介助の日英比較

図4 看護支援補助機器の日英要望機能